

FOMCを受けての日米株式・リート市場

当面は景気・物価指標を慎重に見極めていく局面

2023年5月8日

FRBは6月の利上げ見送り示唆も、完全には追加利上げを排除せず

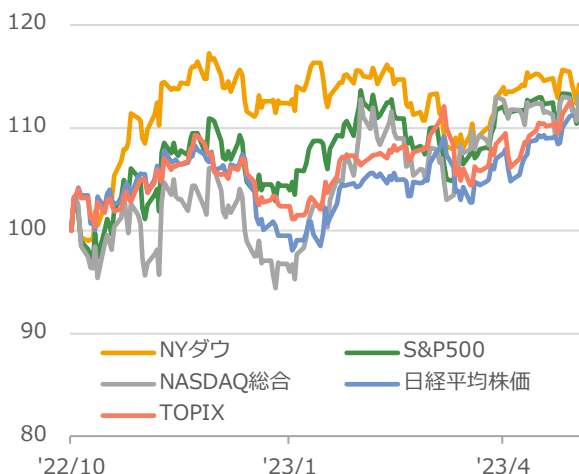
FRB（米国連邦準備制度理事会）は5月2-3日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.00～5.25%へ0.25%ポイント引き上げることを見送りました。0.25%ポイントの利上げは事前観測通りです。

結果発表とその後のパウエルFRB議長の記者会見を経て、3日の米国株は下落しました。次回6月のFOMCでの利上げ見送りが示唆されたことは市場の期待通りでしたが、それ以降の会合も含めて利上げ打ち止めを断定するような記述や発言がなかったことに一部の市場参加者は失望したようです。当面の米国株は、利上げ打ち止めをメインシナリオとしつつも、追加利上げのリスクにも備えながら、日々発表される景気・物価指標を見極めていく展開になりそうです。日本株は、米国株に比べると国内の金融政策や金融システムが安定している点が相対的に評価される動きになるとみられます。

米国リートも3日はFOMC後に下落しましたが、4日、5日は反発しました。米国リートは3月前半の米銀破綻後に大きく下落しましたが、3月下旬以降は落ち着きを取り戻しています。引き続き銀行破綻の影響が懸念されて業種や銘柄の選別が強まる可能性はありそうですが、大枠として利上げ局面が終わったとみられる点はプラス材料といえそうです。日本のリートについては、4月の日銀金融政策決定会合で金融政策の修正思惑が後退したことなどにより、国内金利に対し相対的に高い利回りが改めて注目されそうです。

日米主要株価指数

(2022年10月初～2023年5月5日)



※起点を100として指数化、日本は5月2日まで

(出所) ブルームバーグ

日米リート指数

(2022年10月初～2023年5月5日)



※起点を100として指数化、日本は5月2日まで

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management